

資料1

防災展示学習ゾーン展示計画

2016年7月

【残し、伝える】

◆災害の記憶と記録の保存・活用

市内には、昭和三陸地震による津波の後に重茂姉吉地区に建てられ「ここより下に家を建てるな」と刻まれている大津浪記念碑、チリ地震津波後に金浜地区に建てられ「大地震の後には津波が来る、外国地震でも津波は来る、潮がめだってひいたら高い所へ」と刻まれているチリ地震津浪記念碑など、過去の災害を伝える石碑等が点在しています。

また、東日本大震災津波の惨禍を伝えるためのものとして、津波遺構「たろう観光ホテル」や津波防災学習施設として残す「田老防潮堤」のほか、記録として作成している震災記録誌などがあります。

震災の記憶を風化させることなく後世に伝えていくため、これらの施設等を保存・活用していく必要があります。

【学び、伝える】

◆震災経験・教訓の継承、防災・減災意識の醸成

津波常襲地帯である本市には、津波が来たらばらばらに自分だけでも逃げるという「津波てんでんこ」の言い伝えや田畑ヨシさんが昭和三陸大津波の実体験を基に作成した紙芝居「つなみ」など、これまでに幾多に渡って経験し、乗り越えてきた津波被害から得た教訓が様々な形で伝えられています。

悲劇を繰り返さないため、これら過去の災害からの教訓や震災の記憶・記録について学ぶことができる機会を提供し、市民の防災・減災意識の醸成を図ることが必要です。

【つなぎ、伝える】

◆インターネット等を活用した情報発信、観光との連携

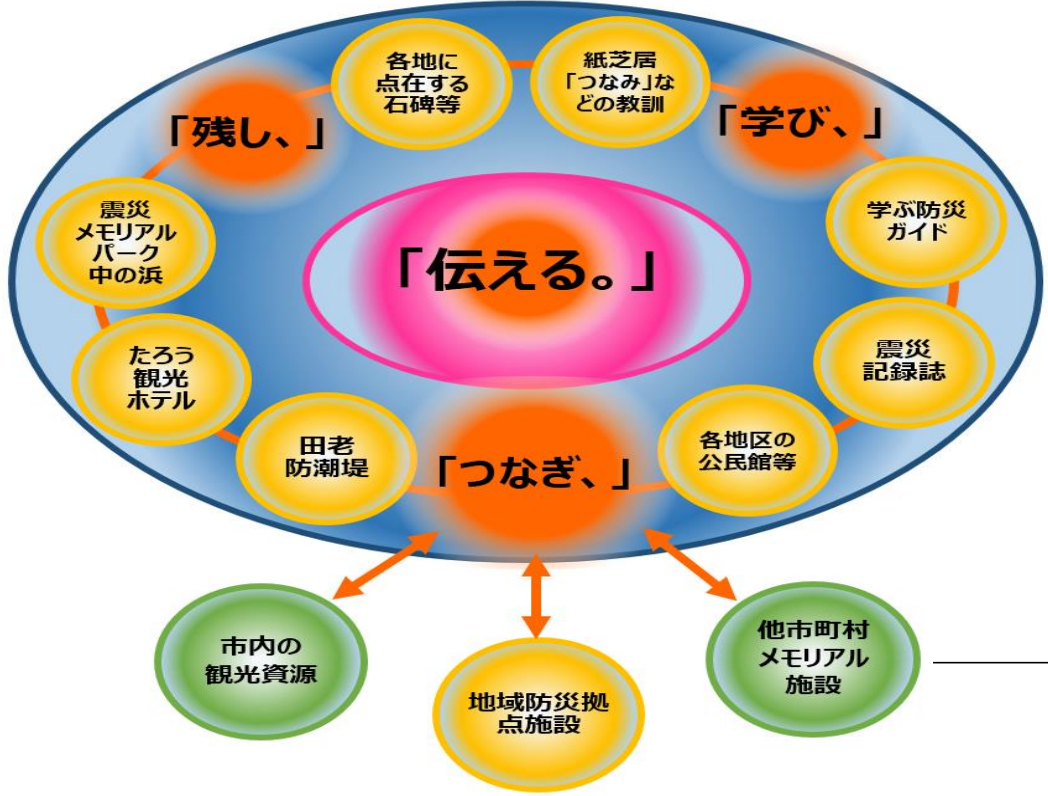
東日本大震災発生直後から、市内外の方々からのご支援により、苦しみや悲しみを乗り越えてきました。ここで生まれた強い絆、つながりが今日までの復旧・復興を推進するための原動力となっており、今後も継続させることが必要です。

このことから、これからも「誰でもいつでも容易に」つながることができる環境にするため、インターネット等を活用し、情報を発信していくことが求められています。

また、市内各所に点在する伝承施設等を案内するためのポータル機能を配置し、市民や本市を訪れた方々に震災の記憶を伝えていくことが必要です。さらに、震災記憶の風化を防止するため、市内の観光資源や他市町村等のメモリアル施設等との効果的な連携についての検討が必要です。

基本理念

一震災の経験・教訓を後世に伝え、震災の記憶を風化させないために一



市町村名	震災津波伝承施設及び震災遺構
洋野町	計画なし
久慈市	久慈地下水族科学館 もぐらんぴあ 元木沢地区漁業集落憩いの場
野田村	十府ヶ浦公園（都市公園） 防災拠点施設 米田歩道橋の一部（震災遺構）
普代村	多機能公園
田野畑村	明戸防潮堤（震災遺構） 島越メモリアル公園 羅賀メモリアル公園
岩泉町	小本津波防災避難施設
山田町	津波伝承館 震災メモリアル公園
大槌町	（仮称）御社地エリア復興拠点施設 旧役場庁舎 等（震災遺構）
釜石市	祈りのパーク 津波伝承施設 総合的な防災学習施設
大船渡市	茶々丸パーク時計塔（震災遺構） 市民体育館前の屋外時計（震災遺構）
陸前高田市	（仮称）震災津波伝承施設 道の駅高田松原タビック45 等（震災遺構）




地域防災拠点施設(防災展示学習ゾーン)の役割

本市が整備を進めている地域防災拠点施設には、市内に点在する伝承施設を案内するポータル機能（紹介）を配置します。
（ポータル機能の具体的な形や役割、運営方法等の検討が必要）

「残し、伝える」「学び、伝える」「つなぎ、伝える」を掲げる宮古市の「震災記憶伝承活動」全体の「拠点」として整備します。

防災展示学習ゾーンは、宮古駅南側で整備が計画されている市民交流センター（仮称）の一角に設ける予定です。
本市の“震災記憶伝承や防災・減災の取り組み活動”全体の「拠点」として、次の3つの機能を柱に、常設の展示と企画展示を行います。

・目的と機能

機 能		展示で紹介する主な内容
アーカイブ機能 （記録保存）	震災の記憶を風化させないために、東日本大震災の被災状況や復興過程に関する写真、映像、証言、図書等を収集し、公開します。過去の津波に関する資料も対象とし、繰り返し襲来した津波による甚大な被害を乗り越えてきた先人たちの逞しさを振り返ります。	・津波被害の歴史（宮古の原風景、津波襲来、被災した町、復興の取り組み） ・東日本大震災の被災と復興 ・宮古震災ライブラリー（図書、報告書、写真集、紙芝居等）
セルフスタディー機能 （自主学習）	将来の災害に備えるために、過去の津波や東日本大震災から得られた教訓を整理するとともに、津波から身を守るために必要な情報を提供します。また、大雨・台風などによる災害をとりあげ、風水害に対する意識啓発を行います。	・過去の津波被害から得た教訓（先人達の取り組み、東日本大震災の教訓） ・減災への取り組み（津波を知る、津波に備える、震災発生時の行動、津波避難の考え方等） ・様々な自然災害（トピックス）
ポータル機能 （紹介）	市内の各地には、津波の被災を物語る碑等が点在し、「震災メモリアルパーク中の浜」や津波遺構「たろう観光ホテル」など、伝承のための施設が整備されています。こうした伝承施設を紹介し、来訪することを促す「窓口」となるような展示をします。	・点在する津波の痕跡（震災遺構、記念公園、各地の石碑）  『たろう観光ホテル』 田老字野原  『震災メモリアルパーク中の浜』/ 崎山  『「海嘯鎮魂の詩」の石碑』 田老字青砂里 (三王園地内)

・防災展示学習ゾーンを軸にした様々な取り組み(展開)

市民交流センターを「拠点」とした活動への貢献	市内の各地で展開される諸活動の支援
<p>市民交流センター（仮称）を「拠点」とした震災記憶伝承・防災学習活動の展開も考えられます。「防災展示学習ゾーン」は、こうした活動に貢献できるような施設として検討していく必要があります。</p> <p>防災士の育成と活動拠点</p> <p>300人を超える防災士の研修や活動拠点としていくことを検討します。</p>  <p>行政・教育視察への対応</p> <p>現在行なっている視察対応を継承し、同じメニューで受け入れられるような体制を整えます。</p>  <p>防災学習の場の提供</p> <p>例えば、紙芝居や読み聞かせ等、子どもたちを対象とした防災学習の実施も考えられます。</p> 	<p>現在、市内では「学ぶ防災」等の活動が行われており、今後、各地の公民館等でも防災学習活動が展開されることも考えられます。こうした活動の広報・PRをはじめ、資料提供など各種の支援活動が考えられます。</p> <p>「学ぶ防災」の支援</p>  <p>一般社団法人宮古観光文化交流協会が行っているガイド事業等の活動を支援し、連携していくことが望めます。</p> <p>公民館活動の支援</p> <p>公民館等を会場に市内の各地域で展開される防災学習活動の支援が考えられます。</p>  <p>観光活動等との連携</p>  <p>例えば三陸鉄道の震災学習列車など、地域の防災観光やジオ観光との連携も考えられます。</p>

導入部分には、デジタルサイネージ(電子看板)を利用した動きのある**アーカイブ機能ゾーン**を設置し、来場者の目を引き、展示室の奥へと誘引します。

デジタルサイネージでは宮古市の東日本大震災の被害と復興の様子をまとめた映像を流します。**ポータル機能ゾーン**の宮古市 津波の痕跡巨大マップとも隣接することで、場所、地形と被害状況等を関連付けて見る事ができます。

外の景色の見える窓面では、**セルフスタディー機能ゾーン**、**ライブラリー**を設置し、震災、防災について学習することができます。

